

日時：2026年3月8日(日) 場所：国労会館3階

受付：八尾山の会：笠井、ハイジ：吉岡

総会開始：大見事務局長の発声

大阪労山で今年度山の事故で亡くなられた方はおられないが、会で亡くなった仲間、震災やその後心労などで亡くなられた方、ウクライナやガザの戦闘、ベネズエラやイランへの侵攻で亡くなられた非戦闘の方々、辛い日々を送っている方々に哀悼の心を届けるために黙祷。

手話通訳者の紹介：大阪市手話通訳連絡会 安倉、竹村

議事日程及び議長・書記の任命：(大見事務局長)

議長(このはな山の会：志鎌代議員、吹田労山：蘆田代議員)

書記(西淀労山：山野)、中井常任

総会役員選出：(大見事務局長)

資格審査委員(豊中労山：稲岡代議員、ひまやま：奥田代議員)、大西常任

選挙管理委員(淀屋橋労山：濱崎代議員、Rocky：林代議員)、松本常任

議事運営委員(げんごろう：吉田代議員、つりばし：三木野代議員)、澤村常任

議長挨拶 AM：このはな、PM：吹田労山

総会役員第一回会議開催

資格審査委員会(大西常任)

代議員総数55人。出席36人+委任状14人の合計50人で過半数を越えており、規約第8条(2)より総会は成立。

選挙管理委員会(松本常任)

役員立候補は松本まで。受付は昼食休憩終了までと説明。

議事運営委員会(澤村常任)

進行について何かあれば提案を行う。

祝電メッセージ(大見事務局長代読) 全国連盟 川島理事長

(内容要約)

山と登山を愛する仲間として連帯のメッセージ。

世の中ではAI革命、IT化が進み、社会生活の大きな変わり目にきている。

少子高齢化による組織登山者の減少、遭難事故の増加、気候変動による自然災害の大規模化だけでなく、森林火災、熊の被害など身近に新たな危機が発生している。登山と登山文化の発展を阻害する政治的・経済的悪条件、とりわけ安全な登山に欠くことのできない平和を根底から覆しかねない戦争や紛争が世界各地で発生し、解決の見通しはたっていない。日本では与党が絶対的安定多数となったが、生活向上に繋がるのか、株価の上昇は貧富の差を広げるだけではないのかなどよく考えることが必要だ。しかし、そんな中だからこそ、山で自然にふれあいながら将来を語り合おう。互いに思いやりの気持ちを持ち支え合いながら健康寿命をのばしていこう。全国労山では2月14～15日、東京都千代田区で第37回総会を開催し、これからの労山活動について真摯に話し合いが行われ、議案がすべて可決された。大阪府連は安全登山教育、自然保護活動、労山ニュースの発行、国民平和大行進への参加など優れた活動を展開している。今回の総会でも活発な議論がなされ、新しい仲間を迎え入れる事を期待している。

議案 提案

第1号議案

・情勢・活動報告・方針：（高橋理事長）

・2月14、15日の全国連盟総会での大阪に関わる決定事項について報告。

全国連盟費は130円→100円に変更で可決され、大阪で30万円余りの出費が減ることになった。

・労山基金の申請について、

近畿ブロック搬出講習会で八尾山の会の方が骨折し申請したが「室内での事故のため対象外」との対応で、理由説明もなく日が過ぎていた。近畿ブロックで討議し、抗議文を何度も提出していたが進展なし。全国総会で和歌山の役員、田中氏が「全国連盟の安全対策基金から補助も出て推進していた安全登山のための訓練にも関わらず、室内であるから対象外」ということについて対象として認めて欲しい旨申し入れされた。全国連盟から「検討を始める」と一年経ってだが一步進んだ回答を得ることができた。

・2021年に理事長になってからの数年を振り返ってみた。2020年にコロナが蔓延し、事務所の使用については河野会長のご協力も得て換気調査をし、人数調整を行った上で、窮屈な状況ではあったが運営や活動を継続してきた。一方でALBA木村氏などのご協力でもZOOMを活用した会議や座学ができるようになったことは利点としてあげられる。2025年度事務所使用は120回、即ち3日に1回皆さんが利用していることであり、活発に活用されている状況であった。

・2025年度重大事故は3件発生(ハイキング中の脳梗塞、北アルプスのヘリ搬出、北尾根での滑落であり、いずれも自力下山できなかった。)の内、ハイキング中のヘリ搬送につき所属会の経験談として紹介。

事故者は昼食休憩後呂律が回らない状況。救助要請。15分後には消防隊、10分後ヘリ搬送を受けたが、同行者のヘリ同乗は認められず徒歩下山になった。

病院で最初に指摘されたのは「脱水症状」。山岳医の大城医師によれば、起床から登山開始までに500mlの水補給(睡眠中にも汗をかく)を意識することが大切とのこと。塩分を接種すれば効率的に水分を体内に留められる。スポーツドリンクは効果的。30分～1時間に1回の水補給。クールダウンにもなる。山行中まったくトイレに行かないのは水分不足。登山に大切なことの順位があるとすれば地図の次に水分をあげたい。このことを本日改めて皆で共有しておきたい。

・政治的な多くの問題、熊問題、米の高騰、世界情勢など不安になる毎日だ。その中でも一山岳会一人純増を目指したい。会の運営を継承しづらい会も多いようなので、真剣に存続していく方策を考えていきたい。

・全国総会にて埼玉県連が1年間の活動を冊子にしていたのがよい試みだと思ったので、これを参考に組織部で苦労してまとめてもらったものを配布している。今後も会員拡大につながられるように冊子を育てていきたい。ご協力を。

・組織部：（下窪常任）

・会員拡大のため活動で、数々の活動を実施。

会員減少を止めるため仲間を大事にする活動として百名山の輪を企画、実施した。

能登半島地震の支援ボランティア活動(3回実施)でつながりもできてきた。義援金として山の装備品バザーの収益金を送金した。

・会員数は18名減の915名。

・話し合いの輪、集いの輪で大阪労山が抱える課題を出し合い、考える場や講習の場とした。

兵庫県連と会員拡大に向けた取り組みについて意見交換した。

・2026年度方針として、話し合いの輪、集いの輪を継続。百名山の輪は5回を予定している。

未組織の登山者に対する声掛け運動として宣伝チラシや会名刺の配布をお願いしたい。

・ハイキングセミナー：（校長 中尾）

・夏、冬ともに開校。30期を迎えた。皆で楽しく学んでいる。スタッフはいるが生徒が少ないの

が現状。

・31期は暑い夏を避けるために早い時期から始めるとか、天候による中止なども慎重に検討しつつ安全に進めていく予定。何時でも山を楽しめるように日頃のトレーニングから大事にして進めていきたい。

・受講生は一般から会に入会してもらうのが望ましいが、労山会員も受け入れているので、60才以下の方はご参加を。他の県連にも広げて行きたい。

・ **子どもの冒険学校**：(大見常任)

・女性委員会、初級夏山登山学校の協力も得て、横の繋がりに気付き有効であったと考えている。ただ14年間で新人1名を確保するに留まっており、大阪労山がこの学校をやる意味があるのかについて、皆で議論してもらいたい。

・ピラ配布については、最近受け入れてくれないところもあり、登山学校などとも情報を共有し、効率的に配布していきたい。

・大津市は子育て世代が多いので効率がよいようなどの情報もある。

・ **女性委員会**：(榎本常任)

・月1回の例会実施、子どもの冒険学校への協力、近畿ブロック女性委員会の活動への参加など継続してきた。

・2026年度も女性委員の交流やスキルアップ、近畿ブロックへの協力と共に、子どもの冒険学校への協力など継続して活動していきたい。

・ **機関紙部**：(大西常任)

スタッフ6名で発行してきた。毎月150部発行。

労山のHPへの掲載も継続してきた。

2026年度も継続して活動する。HPとのリンクやOWAFへのアップも続けていく。

・ **自然保護委員会**：(澤村常任)

・友が島上陸に成功。参加は10名だったが1時間ほどで約30kgの大量ゴミを回収。来期も行いたい。

・らいちょう目撃を環境省HP「いきものログ」に投稿しているが、累計99件でほぼ半数を占める。来期5件だせば過半数を越えることになり、これをもって7団体自然保護連絡会に共に活動をとアピールしたいので是非協力を。

・自然保護憲章の実践が重要であるが、新人には登山がてらの自然活動でよいと伝えている。全員参加の自然活動を。

この活動を広げて行きたいので、ZOOM会議を始めいろいろな企画に参加をお願いする。

・ **障がい者登山**：(澤村常任)

現在八尾山の会だけが継続して取り組んでいる。大阪として根付かせたいので自会でもとの希望があれば申し出て下さい。

・ **障害者の登山学校参加に向けてのプロジェクトチーム**：(山下常任)

・2018年に立ち上げ活動7年。

・4月に手話で学ぶ登山講習会を実施した。11名参加。

・交流山行で友が島を企画したが、天候のため残念ながら中止となった。

・8年目に向けて聴覚障がい者を対象とした講習会、登山学校への積極的な参加、手話で学ぶ登山講習会などを進めていきたい。

皆さまのご協力とご支援にお礼と更なるご協力をお願いしたい。

・ **長距離縦走委員会**：(担当 木村)

実施日の問い合わせがくるが、毎年10月第3週日曜日に固定している。今年は10月18日なので留

意をお願いする。

参加費を倍にするが、労山会員の参加費は無料としているので是非参加して欲しい。

・**平和と登山委員会**：(大西常任)

国民平和大行進、労山・平和の集い、大阪総がかり行動、戦跡ハイキング、原発賠償関西訴訟の闘いの各活動については、新年度も引き続き進めていく。

原発賠償関西訴訟に関しては、平和あってこそその登山という理念の基に、今後も労山全体で考えていきたい。

・**教育遭難対策部**：(大見常任)

・今年度出来なかったクライミングゲレンデの環境整備、各会教育遭難対策担当者との連携を強化していきたい。各会の担当者会議は4月14日火曜日に開催し、現状把握や事故発生状況の共有、教育システムのノウハウ交換、要望をきく機会にしたい。

・百丈やぐらは委員会を設置し、利用推進を図っていく。

・事故調査では例年通り転滑落が多く、今後検証を進めていきたい。

・死亡事故が1年おきに1名発生しており、新年度は特に注意していきたい。

・過去の死亡事故から、ヘルメットがあれば…、ちょっとジャンプしていれば…といった反省点がみえてきた。渡渉地点の確認や現場での分析など行っていきたい。

・**初級夏山・冬山登山学校**：(大見常任)

安全登山を目指して今年度も実施予定。各会、協力をお願いします。

・**中級登山学校**：(校長 朝日)

・今年度は既に開始しており、定員8名に対して11名の申し込みがあった。コロナ以後で初めて定員オーバーとなった。

入校審査として本日六甲歩荷を実施中。

・縦走、一般登山に飽き足らず上を目指す方が来られる。中級登山学校ではアルパインクライミングの基本を教えることをメインとしている。将来フリークライミング、沢やアイスクライミング、高所登山など登山の世界が広がっていく時のために基本の技術を教えている。

・今後もニーズはあると考えている。各会の修了生には運営協力をお願いしたい。

※**第2号議案**

監査担当が中級の入校審査合流のため総会を中途退出するため、順序を早めて報告実施。

2025年度会計報告：(高橋理事長)

会計監査報告：(会計監査 朝日)

会員数減少により収入も減少している。皆さんの活動を自信をもって進めて頂き、

会員増に転じてもらうことを願っている。

第1号議案(続き)

・**初級アルパインリーダー学校**：(大見常任)

労山ではリーダーになりたい方が減っている。この学校は必要か議論をしてほしい。

冬期のアルパインクライミング(アイスクライミング・冬期登攀など)は現在開催していない。

また冬期中級登山学校について、若い方の要望もあるようなので討議をお願いしたい。

・**岩登り体験教室**：(大見常任)

初めて岩登りをする方向け。無所属の方が多い。

今年度7名(一般6名、労山会員1名)。

終了後のフォローができていないので、会への呼び込みなどは是非かけしてもらいたい。

・**山の教室**：(担当 木村)

4月の申し込みは始まっているので参加を。

・**技術委員会、やぐら管理委員会**：(大見常任)

体制が変わる。皆が使えるように進めていきたい。

・**転倒滑落停止研究会**：(大見常任)

転倒滑落を減らせれば事故は減らせる。

目指す方向としては転倒防止と転倒後骨折に至らない防御の二つがあり、現在は防御で検討を進めていく意向。成果が出れば報告したい。

・**救助隊**：(大見常任)

現在活動していない。隊長交代のため引き継ぎ中。

4月の搬出講習会は実施予定。参加を。

・**海外登山委員会**：(大見常任)

昨年から再開。

4月13日月曜日、19:30～ モンブラン登頂報告を西宮山岳会にお願いしている。

第2号議案 予算案 提案：(高橋理事長)

全国連盟への連盟費130円から100円への減額に伴い、各会から大阪労山への連盟費を300円から270円として提案。

全国連盟の事務推進費は廃止となった。

選挙管理委員会：立候補は現時点で無し。あれば、休憩終了までに。

議事運営委員会：議事進行は予定通り。休憩は12:00～13:00。

資格審査委員会：途中退出される方は委任状を。(出席37人、委任状14人、合計51人)

昼食・休憩

12:00 ～ 13:00

懇親会の参加呼びかけ：(高桑常任)

開会宣言・会長挨拶(園会長) ※午前の部で抜けており、ここで実施。

世界情勢はきなくさい。平和であってこそ楽しめる山・登山だ。

平和であって欲しい。平和を目指して、手を上げて。現実的に海外登山するにも、ヨーロッパに行く際ロシア上空を飛ばない、ドバイに向けて飛ばないということである。改めて平和の大事さを認識してほしい。組織部は下窪常任、高桑常任が前任者から運営を引き継ぎ、能登支援なども含めた新たな企画を打ち出し進めて頂いている。平和行進も続けられており、2025年度は灼熱の中の実施であったが70名の参加があった。新年度も暑い中であるが参加をお願いしたい。数年前、吹田労山から会の中での教育活動ができないので連盟で担ってほしいと提案があり初級登山学校や岩登り体験教室など要望に応じてきた。議案書の参加者の感想を読むと会員のニーズに応じてきて良かったと感じる。一方で山に若い子がいるのに学びの場に来てくれないという現実がある。問題点がどこにあるのか掴み切れていないが、学ぶ場が必要な方に学校などへの参加の呼びかけやセミナーの紹介をしてあげてほしい。

総会委員からの中間報告

資格審査委員会：(大西常任)

1時時点での代議員総数55人。

出席37人+委任状14人の合計51人で過半数を越えており総会は成立。

選挙管理委員会：(松本常任)

現在まで立候補なし。各議案採決の後に、現役員からの推薦について信任投票を行うのでご協力をお願いする。

議事運営委員会：(澤村常任)特に発言無し。

専門部補足説明

・女性委員会：(榎本常任)

女性委員会の人員が減っているので各会から参加をお願いしたい。

第1金曜日19時から例会を行っている。見学でも良いので参加してほしい。

・自然保護委員会：(澤村常任)

自然保護憲章は今年の2月で20年を迎えた。冊子を持ってきているので、会の新人には必ず配布をしてほしい。

・組織部：(下窪常任)

百名山の輪の山行申し込みについて、owafメールで配信するので参加を。

討論

Q: (げんごろう 吉田代議員)

・金剛山のロープウェイが廃止された。

子どもや高齢者が山に親しむには便利で使い勝手が良く、歩いてきて疲れたときに安心感をもてた。なくなったのは痛手だ。

・妙見山のケーブル、六甲山でもと考えると次は葛城山かと危惧している。

労山でも復活などに取り組んでもらえたらありがたい。また、剣尾山・水越峠・三峰山などへの公共交通機関であるバスも無くなったり減便したりしている。

すぐにはできるとは思わないが、労山として何か取り組めないかと思う。

A: (大見常任)

・難しい問題だが、初級登山学校では「地元で金を落とそう」ということで、安易に自家用車を使わずバスなど公共交通機関の使用を心掛けている。また地元のスーパーなどの使用に努めている。各会もそうして欲しい。

・環境省は金を持っており、国立公園有効活用ということをやっている。過疎地であることが多い国立公園なので、地域の振興を目的としたものがインバウンドの引き込みなどに働いてくれれば過疎対策にもなる。ただし、公園内に高級ホテルなどの建設という話が出たこともあるので、しっかりと監視することが必要。

・北海道では美しいところを保全していくために、企業などが協賛して自然を自然のまま活用していくという試みを実施している。うまくいけば、過疎化対策になって公共交通も維持されていくのではと個人的に考えている。

・過疎化対策と自家用車を使わないということが今できることかと思う。

Q: (ひまやま 奥田代議員)

・北摂地域でも公共交通機関の衰退がみられ、山行に影響を受けている。会の中でも状況を危惧している。

・府連事務所は便利でありありがたいが、会員からは暗い、かび臭いという声が出ている。

協力金を集めるなどして改善、少し使いやすい環境にできたらと感じている。

A: (高橋理事長)

もともと海苔倉庫であり、壁が厚くそういう傾向があるかもしれない。

事務局に率直に伝えておく。

Q: (ひまやま 奥田代議員)

労山基金の運営状況は？

民間の保険の利用などで労山基金への入会をことわられることがある。利点はあるか。また推奨口数があれば教えてほしい。

A: (高橋理事長)

全国総会で聞いている限りでは、基金会計に危険はなさそう。口数は、全国的に半数以上は5口以上掛けているようだ。

(大見常任)

資金的に余裕があり、そのプラス分で全国連盟から大阪の登山学校などへの補助金をもらってい

るので、できれば入ってほしいところだ。

他の保険にはない海外登山、ピッケルを使った登山、ハイキングの3倍給付もある。会に還元される、民間の保険会社ではできない内容だということを伝えて、一口でもよいので勤めて欲しい。

(ALBA 木村代議員)

ココヘリは遭難に関しては給付は高い。ただスターリンクがドコモ、ソフトバンクで始めるという話があるので今後は不透明。

基金はどの保険より入通院給付金が高い。最近山レコが高いものを出しており、労山基金とどちらかといったところかと思う。

(園会長)

全国総会に参加した時の資料から伝えたと、基金の口数は5口が3割程度、3口が25%、1口が25%程度。

(ひまやま 奥田代議員)

ココヘリはピックアップだけではないか。会では北アルプスのような深い山よりも近郊の山に行くことが多いが、近郊でも有効なのか教えてほしい。

(大見常任)

高齢者や子どもの見守りの分野に関わっているので、近郊対応はある。ただ今後スターリンクがでてきたり、一部で有料化になったりするとココヘリはつぶれる。

労山基金はまだまだ体力がある。

(西淀 山野)

昨年の総会で、全国連盟理事・ココヘリ担当が話していたが、ココヘリは探索だけでなく、救助活動も行い、ココヘリ入会で基金の保証金倍率が増える利点もある。

ただし、補償は、ココヘリが手配したものに限るので、当初にココヘリへの救助要請連絡が必要。

Q: (雑木の会 佐藤代議員)

連盟費の改定について①府連の連盟費の規定②府連への連盟費と全国への連盟費では差額は従来200円、改訂後170円の算定根拠③改訂後33万の減収になるがどのような影響があるかについてききたい。

A: (高橋理事長)

・大阪府勤労者山岳連盟規約では、16条にあるように「総会で決定」となっている。

・算定根拠は経費が必要だからということになる。

予算案作成の際には10円、20円、30円それぞれの減額案と全く減額しない案を常任理事会で提案し討議したが、全国への連盟費減額に伴う増収分を全て各会に還元するという意見が多かったので、今回30円値下げの提案となった。

議決の際反対が多ければ、現状維持ということになる。

(議長)

議案では組織拡大が急がれるとある。

ホームページなどの充実で会員を増やしている会の経験を聞きたい。

・豊中労山から会員を増やした経験や充実したホームページの実践について報告。

→(豊中 平林代議員)HPなど映しながら説明

・会員拡大は、ホームページ、SNS、学校の充実による。

山岳会を探している方は、色々な会のホームページを見て比較されている。情報が更新されているか？楽しそうな活動の写真が掲載されているか？をチェックされている。

・ホームページの充実とSNSは具体的にはインスタが中心の二本立て。インスタに上げるとFacebookにも同じものがアップされる。

Facebookは50代以上の方、インスタはそれより若い方がターゲットになっており、会としてはインスタの方に力を入れている。

・インスタは1人体制でやってきたが2人に増やそうとしている。

なかなか情報が上がって来ないので、会として揚げてもらおう努力はしている。

ホームページ改訂は昨年 10 月に実施。写真や会活動の紹介、スケジュールなどを入れている。

・月 1 回の公開ハイクもインスタに入れて一般参加を募集している。

・インスタ作成は若手 40 代が行っており、若い人が写っている写真を選ぶなど工夫をしているが、その成果か、若い人が来てくれる。

・保険もそこで確認しており、労山基金でなくても 200 万円以上のものへの加入であればよいとしている。

・公開ハイクは 5~10 名ぐらいの参加がある。

ハイキング後に反省会として飲み会を行っており、そこまで来てくれれば入会に結びつく。入会すれば、8 割程度は会の登山学校に入校する。

・ 雑木の会の経験報告。

→(雑木の会 佐藤)HP など映しながら説明

・かつて広報は紙で掲示板を使用したり新聞に載せたりしていたが、Windows95 が出たあたりからブログ、ホームページを使用し始めた。

・内容が内向きで昔の事を書いたりしており、なかなか会員以外の人に見てもらえないので外向きになるよう改善に努めている。

・保険については条件を検討しながら、会員のみ例会ハイクに会員外の人を加えた公開ハイクとして実施できないかと検討している。

・ こもればの充実したホームページの報告。

→(こもれば 小山代議員)HP など映しながら説明

・従来公開していたホームページは 2022 年に休眠状態に。

市の広報への掲載をしていたが、地域が限定されること、頻度が少ないといった問題があり、ホームページを新しく作ろうということになり、最近再開した。

公開ハイクへのお誘い、活動報告なども入れ、レイアウトはパソコンより使い勝手のよいスマホで見られる形で作成している。奮闘しているが認知度は低い。

・府連のリンク更新を行って欲しい。「この指とまれ」にはリンクがはられているが、会紹介部分は現在のリンクではないのでリンク設定の更新をお願いしたい。

・今年、中山の梅林公開ハイクでは新入会があり、いろいろな手を打つことで効果が出てくるのではないかと感じている。

入会案内のちらし、名刺大の会紹介カードを作成し、公開ハイクの参加者や山行中などに配布するようにしていこうと思っている。

・ 八尾山の会から地域での障がい者登山の継続など多様な取り組みを続けている実践報告。

→(八尾 中路代議員)

・搬出講習会での事故において全国連盟への基金についての働きかけや、長距離縦走で会員 1 名がお世話になったことにお礼を申し上げる。

・ホームページ、インスタでは、例会、個人山行、山行メモを逐一公開している。機関紙玉手箱に感想やレポートなどを入れており、興味を持ってもらっている。プロフィール、過去の例会情報も掲載している。

・会名に八尾という地名が入っているので探す時に検索しやすいく。

・障がい者ハイクは、作業所の方々と山に行くボランティア活動として毎月第 3 土曜日にラクラク登山を実施している。その作業所のスタッフと実行委員会をつくって八尾市の応援を得て障がい者登山を実施している。ホームページだけでなく、障がい者ハイクも会員拡大に繋がっている。

・手話学習者があり、手話サークルにハイキングのお誘いに行った。手話サークルにはろう者だけでなく健聴者もおおり、健聴者で手話が出来、山も好きという方や中途難聴の方が体験を経て入会となった。

・大阪府の花屏風ハイクにスタッフとして参加要請を受けて八尾山の会が参加しており、八尾山

の会の知名度を上げる効果になっていると考えている。連盟でも枚方、東大阪、四条畷でのハイキングリーダーをされてみてはどうか。

- ・大阪ぼっば会からクライミング教室を継続している実践報告。

→(ぼっば 橋本代議員)

・毎年10月に岩登り教室を行っている。最近の状況では参加者が少なく、会員になる方がいない。岩登り教室のスタッフやリードしてくれる人も少なくなってきた。

・数年前にホームページをリニューアルしており、比較的扱いやすい仕様のホームページであるために、頻繁に山行記録を掲載していくようになっている。

更にFacebook、インスタも並行している。インスタ閲覧数が多く、会員拡大に繋がればと思っているが、まだ拡大には繋がっていない。

・岩登りがメインの会であり、公開山行はしにくく課題を抱えている状態。

- ・くまごろうから2人増やされた経験報告。

→(くまごろう 水口代議員)

・ホームページで、機関紙担当者がpdfにして会員限定でアップしている。

一般公開部分に活動のスケジュールを掲載しており、問い合わせがあれば直近のハイクに参加してもらっている。

(高橋理事長)

昨年、現役世代が入会しても継続してもらうのに苦労しているとの発言があった。

退会せずに継続してもらえる工夫などあれば教えてもらいたい。

→(豊中労山 平林代議員)

・現役世代はインスタを見て入ってきている。

入会すると会の初級登山学校に入るようになっており、継続に繋がっている。

・卒業生が登山学校を紹介するので大多数が入校する。

登山学校に入らないと退会されることもあり、最近「ウェルカム山行」を設けて会員とふれあい交流する機会が持てるようにしている。

→(八尾山の会 中路代議員)

・会ではなかなか教えることが出来ないのも、府連の学校への入校を進め育ててもらっている。

修了した人はまだ力はないかもしれないが、スタッフとして更に育ててもらっている。そうして学んだ人たちはやめないと確信している。

・会山行で撮ったみんなの写真を労山カレンダーに応募し、カレンダーをゲットするなど、全国や労山との交流を体験してもらうこともしている。会単独ではできなくても力を借りることでできてきたと思う。

(大見常任)

豊中はインスタなどの更新が速いようだが、担当は1人なのか。誰でも投稿出来るものを使用しているのか。

→(豊中労山 平林代議員)

更新は40代会員が1人で頻繁に行っているが、特に負担にはなっていない様子。しかしもう1名増員を考えている。

投稿はそのままでなかなか出てこないのも、出してもらうように会として促している。

出て来ると手早くやってくれている。

ブログは文章が多いので、別に担当を決めている。

(大見常任)

全国の支援もあり、全国連盟のWordPressを使っている会もあるが使いやすいか聞きたい。

→(たつこの 奥野代議員)

無料なので使っている。コツを覚えれば、パソコンに慣れている方なら出来る。

(HC teruru 戸田代議員)

会为中心的に動く人に業務のかたよりが発生してしまいがちだが、何か工夫はあるのか。

→ (豊中労山 平林代議員)

・一極集中しがちだが、そうならないようにしている。

会では組織になっていて、公開ハイクは組織部が、ホームページは広報部がやっている。

組織的に分散している中でも集中しがちなので頑張っている他の人に声をかけている。

人数が多いからうまくいっているのかもしれない。

・初級登山学校を出てすぐの会員など、感謝の気持ちを持っているので頼めば引き受けてもらい易いということもある。

(クラブALBA 木村代議員)

Teruruでは山レコで入下山連絡をされていると聞くが紹介をお願いしたい。

→ (HC teruru 戸田代議員)

・コロナで個人山行が増加。システムに詳しい方が退会したということもあり、スマホで出来るということで導入した。

・山レコのグループという機能 (YAMAPにない) を使用している。

これは入山届けをすると、直ぐに山域、ルートが分かるので内容確認の時間短縮になるし、下山連絡先に会のメーリングリストのアドレスを入れておくと全員に連絡が入る。

・山行中に山レコを起動しておく、閉じると山行コースが出る。写真、コメントを入れるとそのままで簡単に山行報告ができるので便利。

→ (泉州 榎本) 会事務局よりの文書で活動紹介

・ 2024年6月頃よりホームページに加え、インスタを開設。

インスタの方が閲覧者は若く、多い。文字より写真の方が訴求効果は高い。伝搬スピードが速い。投稿が簡便、閲覧者からの問い合わせスピードが速い。

・ 会山行の数を増やし、活動の内容を積極的に会外に報告している。

(報告が継続されていないと会活動が停滞していると判断され、問い合わせを躊躇しがちだと体験参加の方に意見を頂いたことがあった。)

・ 年間の合宿、月2回の会山行、月1回の60周年記念山行、岩/沢/アイゼン等の各種トレーニング、読図/救急等の講習会、会外者参加フリートークを実施しており、会活動の充実は会外者だけで無く既存の会員の積極的な参加や新人会員の定着にも繋がると考える。

・ 年2度の公開山行に加え体験参加できる会山行を増やす、公開山行にイベント性 (ピザハイク・読図・ロープワーク) を持たせ興味を持ってもらう。

・ 定例の会山行に対し企画リーダーや参加会員の協力のもと体験参加者を積極的に受け入れてもらう。問い合わせがあった方への体験参加の機会を増やしていく。問い合わせのあった方への案内は速やかにする。どこでどういう活動、どんな頻度でやっているかをなるべく早く継続的に告知することを意識する。

会員の中で自身のハイキングサークルを主催しそこからのステップアップをしたい方を山岳会へ紹介されている例もあり、そのためにも山岳会らしい活動を意識する。

・ 2024年度以降の新人会員は10名を越えている。

運営側が会員増大へ向けて積極的な活動を行い、それを会員が理解し協力いただいているということの成果であると感謝している。

議案採択：「反対」「保留」「賛成」の挙手判定

第1号議案…活動報告と次年度の方針、第2号議案の①一般会計決算、第2号議案の②特別会計決算、

第3号議案…一般会計、特別会計の予算案、→すべて圧倒的多数の賛成で可決、採択された。

新役員選出：(松本常任)

選挙管理委員：新たな立候補無しとのことで、常任理事からの推薦者について信任投票を実施。

会長・顧問3名は投票不要。会計監査は本来2名であるが、今回は1名について実施。

→過半数以上の同意があり、全員信任される。

休憩10分：第一回常任理事会開催。理事長・副理事長・事務局長の新社役を確認。

15:20

新年度役員紹介：(大見事務局長)

新任役員の挨拶(吹田労山 佐伯常任)

議長団解任：(松本常任)

永年功労賞授与：代表として豊中労山平林会長に園会長より賞状授与。

来年の議長推薦：(高橋理事長) ハイキングクラブELF、つりばし

閉会あいさつ：(園会長) 長時間有難う。今年も共がんばるので、よろしく願います。15:30

閉会

(文責：山野、中井)